

中川ただあき[県政通信]

Water 水

Nakagawa Tadaaki Kensei Tsushin

第13号

《ウォーター》

●発行日／平成17年8月1日 ●発行所／中川ただあき後援会事務所



▲第6回とやま森の祭典にて植樹(富山市赤目谷)5月26日

大変暑い季節を迎えましたが、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。早いもので2期目の折り返しも過ぎましたが、皆様のお陰で元気に働かせていただいておりますことに対し、深く感謝申し上げますとともに、心から厚くお礼申し上げます。

最近、地球温暖化の影響で、本県でも猛暑や局所的な集中豪雨が頻繁に発生しており、気候の変化を身近に感じざるを得ません。

暑ければクーラーを買えば良い、クールビズをすれば良いという問題ではありません。国をあげて二酸化炭素を減らすことが必要です。地球全体のことから関係ない。二人ぐらい協力しなくてもいい。このような考えではなく、自然豊かな本県であるがゆえ、全国に先駆けて自信と誇りがもてる県民一丸となった取り組みが必要だと思っています。

緑と水に囲まれた県土を先人がどんな思いで、考えで守ってきたのか今一度振り返って見るのが大切であります。食糧生産の場である農地の「土」の状態がどうなっているのか。人間の「体」の状態がどうなっているのか。人が人として生きていくための「教育」の状態はどうなっているのか。これらの状態は悪くなっています。

また、平成26年末の北陸新幹線開通に向けて、石井県政では、その時までどんな県にしていくなかという議論が「未来とやま戦略会議」で始まっていますが、10年後の富山ではなく、50年、100年後の富山がどんな人によって支えられているのか視野に入れた議論が必要であります。いずれにしても、「人」「食」「教育」がしっかりしていれば、動ずることはないと思います、先の6月議会で質問に立ちました。

これからも、県政発展のために一生懸命頑張りますので、皆様方より一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。まだまだ暑い日が続きますが、皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心よりお祈り申し上げます。ごあいさついたします。

平成17年 8月1日

富山県議会議員

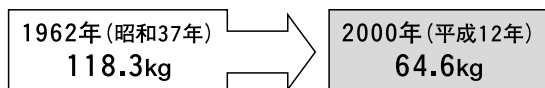
中川 忠昭

すこやかな食生活の向こうに、未来がある！

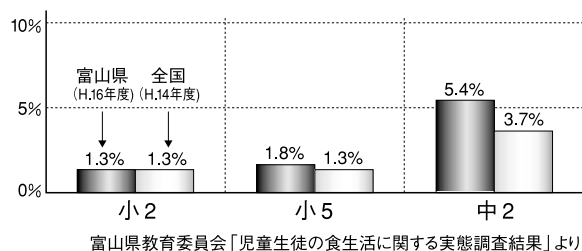
かつて、日本人の食生活は、米・野菜・魚介類が中心の和食だった。昭和50年代になると、畜産物、牛乳、乳製品、くだものなども加わって、非常に栄養バランスの良い「日本型食生活」と呼ばれた。

ところが、現在では主食である米の消費量が減少し、肉類、油脂類の消費量が増加している。また、子どもたちや若い世代には、朝食を食べない者が増加するなど、偏りのある食生活となっている。

■一人当たりの米の消費量の推移（年間）



■朝食を食べていない児童の割合（給食のある日）



■朝食を食べなかった理由（給食のある日）

(単位:%)

	食が 欲が なかつた から	時間 が なかつた から	太り たく ない から	い つも 食 べ な い から	準 備 が 間 に 合 わ な かつた から	そ の 他	無 回 答
小2	20.0	53.3	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0
小5	15.0	65.0	0.0	10.0	5.0	0.0	5.0
中2	21.3	32.8	0.0	18.0	14.8	1.6	11.5

富山県教育委員会「児童生徒の食生活に関する実態調査結果」より

■朝食の欠食状況

若い人ほど、朝食を食べていない！

(単位:%)

		1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年
15 ～ 19 歳	男	10.7	12.7	10.3	14.1	13.4	13.3
	女	14.1	8.3	13.1	10.1	8.9	9.2
20 ～ 29 歳	男	15.5	19.5	23.5	25.5	30.8	30.5
	女	11.7	12.9	14.7	14.3	18.2	16.3

厚生労働省「国民栄養の現状1996～2002年版」より

今日の食生活の乱れは、生活習慣病の増加や、体力がなく精神的に弱い子どもの増加を招いている。平成17年6月10日に成立した「食育基本法」は、これらを改善するためのもので、「国民の責務」として「生涯にわたり健全な食生活の実現に努め、食育の推進に寄与するよう努める」と定めている。

しかし、基本法が成立したからといって、すぐに改善されるものではない。基本法の理念にもあるように、栄養や安全面から食のあり方を学ぶだけでなく、伝統食の継承、生産者と消費者の共生と信頼関係、地域農業の活性化、食糧自給率の向上などを目指し、私たちみんなで県民運動としていくことが大切であろう。

たとえば、本県の小学校と中学校の約7割で、農業か林業の体験学習が実施されているが、今後は田植えや芋ほりなどの単一作業だけでなく、年間を通しての体験や畜産農家での動物とのふれあいなどを通して、自然の営み、生命の尊さ、食べ物の大切さを学んでほしい。

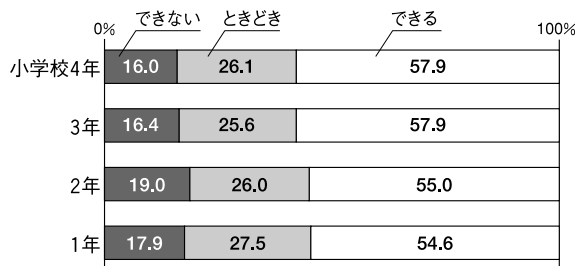
このような食育に関する事業については、県の農林水産部、厚生部、教育委員会などが中心となって推進することになる。県民の健やかな食生活のためにも、積極的な取り組みを期待したい。

まず、箸の持ち方から！

正しい箸の持ち方ができますか？この問いに「できる」と答えた小学生は、6割に達しませんでした。

箸は、日本の食文化の象徴でもあります。また、箸を使うことは、脳の発育に役立つともいわれます。正しい持ち方を、家庭できちんと教える。そんな身近なことから、食育を推進したいものですね。

■正しい箸の持ち方ができますか？



富山県教育委員会「平成16年度とやまゲンキッズ作戦集計結果」より

県議会 一般質問 平成17年6月

食育基本法の成立に伴う
本県の取り組みは？

中川●日本人の食生活の乱れを正すために、食育基本法が成立した。しかし、平成12年度に閣議決定した食生活指針のように、国民の認知度が低く、国民運動に繋がらないようでは困る。基本法が成立したからといって、即、改善されるものではない。いかに、県民運動として真剣に取り組むかが課題である。本県では、どのような体制で、どう取り組むのか、知事の所見を伺いたい。

石井知事◆今後、国においては、食育基本法に基づいて食育推進会議を設置し、食育推進基本計画を策定することとなっている。本県としては、「とやま地産地消推進会議」との関係なども整理しながら、食育を推進するための新たな組織を設置したいと考えている。

その組織が策定する推進計画の中では、従来の食育副読本の作成・配布などのほか、富山の伝統的な料理や食文化を伝える人材の育成、ボランティアによる食育活動の推進、地場食材のPRなどの施策について検討し、県民のみなさんの幅広い参加も得ながら、積極的に推進していきたい。

食育推進のためにも、
県内の野菜自給率の向上を！

中川●食育を推進するためにも、野菜

づくりを振興し、県内での自給率をあげることが重要である。これからは、農家にも、団塊世代を中心に退職した者が増えてくる。現在でも、作付けしたいけど、きっかけがなくて困っている者もいる。こうした方を是非とも指導できる体制をつくり、小さい単位から自給の輪を広げていくことが必要ではないか。そのための取り組みについて伺いたい。

農林水産部長◆県においては、地産地消の推進を県民運動として展開しながら、野菜生産に意欲を持って取り組む方々をより多く掘り起こすために、栽培講習会の開催、地場製品のインショップ販売への支援、パイプハウスをはじめ施設整備への助成などを行っている。

今年度からは、学校給食への食材提供を目的とした新産地の育成、生産者と消費者との交流促進、本県に適した野菜の栽培実証、そして団塊の世代を対象に「とやま婦農塾」などを展開し、野菜生産の裾野の拡大に努めたい。

土づくり推進基本方針の
実績と本年の取り組みは？

中川●食のとやまブランド化を目指して、本県の農林水産物の販売促進を図ろうとしているが、何よりも安全で安心して食べられる良質のものを生産することが基本である。しかし、例えば富山米を見ると、最近ランキングが下がり、気象条件に耐えられない面



▲北日本新聞朝刊より（6月18日掲載）

も出てきている。そのため、さまざまな技術指導が行われてはいるが、いま必要なのは、健全な土づくりである。

本県では毎年、土づくり推進基本方針を立て、全県運動を展開しているが、どの程度の実績があがっているのか。また、土づくりには、有機物の施用、特に完熟堆肥が有効であるが、その実績と本年の取り組みについて伺いたい。

農林水産部長◆これまでの取り組みは、土壌改良資材の散布による養分補給、堆肥などの散布による有機物の倍増、そして水田を深く耕すこと、この3つを柱として展開してきた。水稻への土壌改良資材の散布量は、3年前と比べ2倍に増加している。また、家畜排せつ物を利用した堆肥については、畜産農家と耕種農家とが連携して活用されている。

今後とも、研修会の開催などによる土づくり意識の高揚、堆肥化施設の整備への支援、レンゲのような地力増進作物の作付けなど、有機物の利用拡大に積極的に取り組みたい。

知事と議会の意志を
学校教育に反映できる行政に！

中川●地方の教育行政について、一部に、教育委員会不要論が出てきている。その背景には、組織的なことや予算的なことなど、いろいろな問題がある。自分たちの地域の子どもたちを、自分たちの地域にふさわしい方法で

教育するためにも、知事と議会の意志が学校教育に反映されるような行政が必要ではないか。地方の教育行政はどうあるべきか、知事の所見を伺いたい。

石井知事◆教育委員会制度が発足して半世紀以上が経過し、社会状況も著しく変化している。迅速な意志決定や責任の所在の明確化などの面で問題がある場合は、制度の見直しも必要と考えている。また、この点については、中央教育審議会・地方教育行政部会においても、首長と教育委員会の連携の重要性を指摘している。

知事に就任して以来、県内各地でタウンミーティングなどを開催し、県民の意見を聴いてきた。その際に出された教育関係の意見については、その都度、教育長などに伝え、できるだけ県民の声を活かした教育行政が推進されるよう努めたい。

県都富山市に 通年型観光資源を！

中川●本県の観光資源は、ほとんどが季節や期間の限られたものであるため、その期間しか観光客が訪れない。県都富山市に通年型観光資源を持てば、宿泊客も増え、ホテルも増えるのではないか。富山の魚やくすりなどをテーマにした通年型の観光施設を整備してはどうか。

商工労働部長◆本県において、平成16年度の観光客入込数は、冬場が約

391万人、夏場が約966万人だった。冬場は、夏場の約40%であり、通年型観光の推進が課題となっている。

魚や薬をテーマとした施設としては、黒部の「魚の駅・生地」、魚津の「海の駅・蜃気楼」、氷見の「フィッシャーマンズワーフ海鮮館」、そして富山市の「売薬資料館」などがあるが、県ではこれらの既存施設のPR・活用を図るとともに、冬場の観光キャンペーンの実施や新たな観光コース開発などに取り組んでいる。

今後とも、「未来とやま戦略会議」の部会において民間活力を活かした観光戦略についても議論・検討しながら、通年型観光の推進に努めたい。

北陸自動車道に、 富山東インターチェンジを！

中川●北陸自動車道に、富山東インターチェンジを。多くの県民から、このような要望が出されている。もし、これができるば、富山市の外郭環状道路の連結点として、また富山インターチェンジへの集中分散や富山市東部地域の活性化、国道41号線の混雑緩和な

ど、いろいろな効果が期待される。本県では、今年度から調査に入るとのことだが、もっと積極的に、実現に向けて取り組んではどうか。

土木部長◆今年度、富山市では、富山東インターチェンジとして流杉パーキングエリアにスマートIC（建設管理コストの削減が可能なETC専用のインターチェンジ）を設置する際の課題整理を行うため、需要予測、周辺環境への影響などの調査を行う予定であると聞いている。

しかしながら、このスマートICについては、国においてもまだ実験中であり、本格導入のための条件（例えばインターチェンジの構造、採算性、建設および維持管理の費用負担など）については、いまだ明らかにされていない。

県としては、スマートICによる追加インターチェンジの設置は、地域の活性化などに有効な手法であると考えているが、今後の国の動向にも注目しつつ、富山市が行う調査に対して適切な指導・助言等を行っていきたい。



教育警務 常任委員長に就任！

学校教育、地域の安全安心のために一生懸命頑張ります！
（教育委員会、警察行政所管）

県議会 一般質問 平成17年2月

県税滞納の現状と 徴収率の向上をはかれ！

中川●過去10年間の収入未済額はほぼ横ばいで、なかでも個人県民税や自動車税の収入未済額が大きく、個人県民税の徴収率は下がっている。

県税滞納の現状について、どう認識しているのか。徴収率を上げるために、どう取り組んでいくのか。

齋田経営企画部長◆収入未済額が増加した原因のひとつは、長い景気の低迷を受けて、家計における収入減な

どにより、税を納付しがたい案件が増えていること。もうひとつは、自動車税についてだが、登録によらないで自動車の譲渡が行われるため、実際の使用者と登録上の所有者とが異なり滞納となるケースがあること。この2つが大きな原因ではないかと考えている。

それから、県民税については、徴収効果が上がるよう、市町村と連名の文書による催促、戸別訪問による督促を行っている。このほか、今年度は新たに目標管理による滞納整理マネジメント研修、滞納者との実際のやりとりを想定したロールプレイング研修を実施。市町村職員の徴収能力の向上に協力している。

また、財産を有しながら納税の誠意のない方、累積滞納となっている方などに対しては、徹底的な財産調査を実施して、給与、預金、ゴルフ会員権、生命保険金などの各種債権や不動産などを差し押えるなどの処分を行ったこともある。

今後とも、市町村との協力関係を緊密にしながら、厳正な滞納整理を実施して税収の確保、収入率の向上に努めていきたい。

中川●平成17年度の組織機構見直しの中で、県税事務所を一元化し、賦課徴収機能の効率化を図るとしているが、滞納対策を徹底すべきではないか。具体的にはどう取り組むのか。

齋田◆平成17年度の組織機構の見直しにおいて、県下4ヵ所にある県税事務所の賦課徴収機能を、10月1日から1ヵ所に統合する計画である。

この統合により、滞納案件に応じて柔軟に事務を分担できる。倒産事案などの突発的な案件に対しても、一度に多くの職員を投入できるので、スピーディな対応が可能になる。そして、徴収に関するノウハウが1ヵ所に蓄積されていくので、異動などで新たに配置された担当者にも適切に引き継ぐことができると考えている。

また今後は、滞納発生から徴収まで、各ステージごとに担当者を置く分業型の体制に再編する。進行管理を徹底して、効率的で組織的な徴収対策を実施したいと考えている。さらに、収入未済額の大きい個人県民税、自動車税については、特別対策班を新たに設けて抜本的な徴収対策を講じていく。

県立大学の新しい学科構成とその基本的な考え方は？

中川●県立大学においては、開学以来初めて、工学部の学科再編に取り組むこととしている。新事業への展開や新産業の創出、そして先端テクノロジーをはじめ21世紀のトレンドへの対応など、県立大学に対する期待はますます大きくなると考える。新しい学科構成とその基本的な考え方について、知事の所見を伺いたい。

石井知事◆学科の改組については、「先端技術」「環境・資源」「人間」の3つをキーワードに、現在の2学科を3学科に改組する。

具体的には、ロボットやナノテクなど、機械工学と電子情報工学の融合を目指す「知能デザイン工学科(仮称)」を申請するとともに、機械システム工学科については、機械と材料を中心に環境と調和したものづくりを目指す。また、電子情報工学科については、豊かな人間生活の実現に寄与する情報ネットワーク構築を目指す情報システム工学科(仮称)に。そして、生物を利用した省エネで環境にやさしい技術の教育研究拠点として生物工学科を新設する。

これらの新学科における教育については、講座構成やカリキュラムに工夫を凝らすとともに、少人数教育で、確かな専門的基礎学力と高い実践力を兼ね備えた創造的な人材の育成を目指したい。

乳ガンの死亡率と早期発見対策は？

中川●近年、乳ガンになる女性が増加している。約25人に1人が乳ガンにかかっているといわれるが、本県における乳ガンの死亡率などは、どのような状況になっているのか。また、これまで乳ガンの早期発見に向けて、どう取り組んできたのか。

東野厚生部長◆乳ガンの死亡率につ

いては、平成元年から5年までの5年間の平均では「人口10万人あたり8.0人」だったものが、平成11年から15年までの平均では「14.6人」と大幅に増加している。

そのため、本県では、しこりのない早期の乳ガン発見に効果がある乳房エックス線撮影装置(マンモグラフィー)による検診の普及を図っている。厚生労働省の調査結果では、平成15年度における本県のマンモグラフィーによる検診の市町村実施率は100%で、受診率も全国第1位の15.7%となっている。マンモグラフィーによる検診によって、乳ガンの発見率が導入前と比較して約2倍になっており、大きな成果が上がっているといえるだろう。

乳ガン受診率の向上とマンモグラフィーの整備をはかれ！

中川●これまで以上に、乳ガンの早期発見・早期治療と検診の有効性を県民に浸透させ、受診率の向上を図る必要がある。県内の検診機関におけるマンモグラフィーの整備台数も、増やす必要があるのではないか。マンモグラフィーによる検診は、受診率が60%を超えると死亡率が低下するなどの効果がある。15.7%ではまだまだ低い状況であり、受診率を上げる努力が必要である。

東野厚生部長◆具体的には、市町村が行うガン検診のうち、乳ガンにかかる率の高い40歳代の方への助成額を増額し、自己負担の軽減を図った。さらに、マンモグラフィーによる乳ガン検診の有効性を広く県民のみなさんに理解してもらえよう、街頭キャンペーン、パンフレット配布、ポスター掲示などを実施することになっている。また、マンモグラフィーの整備台数については、来年度の国の新事業であるマンモグラフィー緊急整備事業の積極的な活用も図りながら、導入が促進されるよう検診機関に働きかけていきたい。

団塊世代の退職後の 農山村での生活や就業促進を！

中川●団塊の世代が退職後も元気で健康に生きていくため、その活躍の場として、農山村での生活や就業を促進するなどの対策を講じてはどうか。

寛農林水産部長◆2007年から、団塊の世代が本格的に退職年齢を迎えることになります。本県では、県内外の、この世代の人たちを対象に、新たに「とやま帰農塾」を開催することになっている。ここでは、田舎に暮らすとはどういうことか、農林漁業体験だけでなく、その土地の習慣やものの考え方、土のこと、里山等がかかえる問題点などの研修を含め、田舎暮らしの総合講座を計画している。

これを通して、富山での暮らしや就業を促進して、同時に過疎化、高齢化の進行する農山漁村地域の活性化にも資するよう努めていきたい。

団塊世代の再雇用による 技術の継承対策は？

中川●数年後に労働力不足が起これ、技術の継承に支障が出ると言われて、団塊世代の再雇用をして豊富な知識と経験を活かす政策を打ち出す必要があるのではないか。本県ではどのように取り組んでいくのか。

室谷商工労働部長◆本県は、日本海側屈指のものづくり工業県であり、すぐれた技術の継承が重要と考えている。平成18年4月1日の高齢者雇用安定

法の施行に向けて、富山労働局とともに周知啓発に積極的に取り組んでいる。新年度から団塊の世代も含め、熟年者が経験や知識を活かして活躍できる場として、創業やNPOなどの取り組みを支援していくことにしている。

具体的には、創業希望者を支援する創業・ベンチャー挑戦応援事業、創業に必要な知識の習得や企業内訓練を実施する創業ニーズ対応訓練事業、富山型デイサービス施設起業家育成講座などに取り組むことにしている。

また、若者に技術を継承するため、熟練技能者による技術指導をはじめ、団塊の世代が豊富な知識と経験を活かし、いきいきと働ける環境づくりに積極的に取り組んでいきたい。

団塊世代が社会に与える 影響と今後の施策は？

中川●団塊世代といわれる年代層がこれからの社会に与える影響などについて、どう認識しているのか。団塊世代がこれから果たす役割を含め、元気で健康に生きていくための対策について、知事の所見を伺いたい。

石井知事◆この世代のパワーを、21世紀の高齢化社会をリードする力として、地域社会活動を含めいろいろな分野で発揮してもらいたいと思っている。

具体的には、今度の予算にも挙げであるが、NPO法人の設立支援事業や地域住民による子育て支援などの面でも、退職世代の方々の役割拡大を考えている。

また、新しい分野の仕事をしたいと

いう方が、私のまわりにもたくさんいる。そのような、創業やベンチャーをやるという人たちへの支援事業も、いま予算化をお願いしているところである。熟練技術者による、高校生や職業訓練生への技術ノウハウの継承、とやまの名匠といった制度も設けている。

そして、健康づくりの面でも、高齢化に対応した医療、福祉サービスの充実など、多様で心豊かな生活ができるよう、取り組んでいきたい。

このほかの質問事項

●農業改良助長法の改正に伴い、農業普及事業が見直され、今後は市町村および農協とのより一層の連携が求められることになるが、どのように連携を図っていくのか。県、市町村、農協の役割分担による業務の一部重点化を行って支援する方針であるが、縦割りになるようなことがあってはならない。

●主穀作の栽培技術指導については、普及センターが法人等の大規模農家を主に対象とし、一般農家や集落営農組織については、農協が主体となって行う方針であるが、現在の農協の営農指導員体制では相当困難ではないのか。集落営農組織への誘導は、担い手育成の面で極めて重要な施策であり、これまでの普及員の努力によるものだとも認識しているが、人員削減の中でどう取り組んでいくのか。

…ちょっといっぷく…



一時的やすらぎを求めて…

赤目四十八滝(三重県名張市)にて



ホームページをリニューアルしました！

しばらくの間、なまくらしておりましたホームページをリニューアルいたしました。今までよりも、ソフトで親しみを感じるような内容にしたい、またいろんな地域や皆様の情報を載せたいと思い、お茶の間のあたたかみのあるホームページにしてみました。いつでもお気軽にアクセスしてください。

地域の楽しい情報
そくそく更新中！

URL ▶ <http://www.tadaaki.jp/>

県議会 商工労働常任委員会 平成17年2月

企業立地助成制度の現状と改正の理由はなにか？

中川●企業立地助成制度を改正することだが、その内容は、助成の対象となる企業が、今までは「設備投資額が10億円以上」だったものが、「設備投資額が20億円以上」に改められている。これは、投資額の少ない企業には助成しないということなのか。なぜこのようなことをしなければいけないのか、詳しく説明していただきたい。

下村立地通商課長◆この助成制度について、5月に県内の企業の皆さんにご説明申し上げたところ、大きな反響があった。けれども、無尽蔵に助成資金があるわけではないので、これらすべての企業に助成するわけにはいかない。そこで、この改正によって、本当に富山県にとって効果のある企業に絞らせていただいたというのが率直なところである。

企業立地助成制度の改正は、もっと検討する必要がある！

中川●この制度はもともと、県内企業

の力をつけるためにつくられた経緯がある。それにもかかわらず、説明会を開いてみたら反響が大きすぎたので間口を狭めるというのは、非常にまずいのではないか。新しいことをしようと考えている企業の出鼻をくじくようなものである。もう一度検討できないのか。

下村◆ごもっともなことだ。けれども、たくさん問い合わせがあったものの、そのほとんどが、助成金が当たるんだからラッキーだという感触のものだった。それで、せっかく助成金を支払うのだったら、ほんとうに困っている人に絞らせていただいたほうがよいのではないかと考えたわけである。

設備投資額の大小で企業を絞り込むのは間違い！

中川●ほんとうに困っている人や企業に絞りたいというのなら、経営の中身をチェックしてから除外していくとか、そのようなかたちでやるべきだ。設備投資額の大小だけで企業を絞るやり方は間違っている。再度、検討ができないのか。

下村◆それも一理あると思うが、私

どもいろいろ考えた末にこの選択をさせていただいた。本当に必要としている企業とそうでない企業を審査することができないのかということだが、実際の実務を預かる側としては、そういうやり方は非常に難しく、いたずらに時間がかかると考えている。急な改正ということで、ご意見を承ったが、今回はこれでやらせていただく。

中川●今まで、特認だとかスーパー特認だとか、いろいろなかたちでやってきながら、ほんとうに情けない話だ。新規だけでなく既存の企業の、新しいことをしようとしている体制をくじくような気がしてならない。何度も言うが、再度検討していただくことを要望する。

中川ただあきと語る夕涼み会



当日は、大勢の方にご参加いただき、大変にぎやかな会となりました。(7月23日)

歩いた！
語った！
学んだ！

中川ただあき視察レポート



中部国際空港「セントレア」視察(愛知県)
(平成17年6月2日)

ものづくりの拠点愛知県の玄関でもあり中部のシンボルを感じましたし、富山との連携を図る必要性を強く感じました。



愛・地球博 富山県の日視察(愛知県)
(平成17年6月3日)



自由民主党文教公安部会広島・岡山視察
(平成17年6月29日)

基礎学力づくりに取組んでいる陰山英男氏(尾道市土堂小学校・校長)と県議会の仲間と読み書き計算による基礎学力と食生活を重視した体力づくりに取組んでいる姿に、私の思いと一致。

◎中川ただあきの主な活動

- 1.22 ●日本建設大工工事業富山県支部総会
- 1.23 ●山室荒屋南台福寿会新年会●山室荒屋新町新年会
- 町会長勢甚速・野上浩太郎新春国政報告会●中川原生産組合予算総会
- 1.24 ●自民党政調会
- 1.25 ●自民党政調会●常西用水土地改良区委員会●とやまダイケンホーム新年会
- 1.26 ●自民党政調会●山室校下高砂会連合会新年懇親会
- 富山県鉄構工業協同組合●城南会新年会
- 1.27 ●自民党北陸新幹線対策特別会●高見隆夫を囲む新春の集い
- 1.28 ●自民党農林水産部会●富山県測量設計業協会賀詞交換会
- 城南会新年会●ゲートボール協会理事会
- 1.29 ●高友会●自民党山室支部役員会●山室中部ビーチボール
- 1.30 ●忠友会幹事会
- 1.31 ●秋吉高砂会●自民党政調会
- 2.1 ●富山ライオンズクラブ例会
- 2.2 ●常西用水土地改良区委員会
- 2.3 ●自民党政調会●自民党議員総会
- 2.4 ●自民党政調会
- 2.5 ●地すべり対策技術協会・グリーンキャスター事業協会合同新春の集い
- 日本海給食新年会
- 2.6 ●山室中部校下町内各種団体長等研修会と懇親会●長勢甚速を囲む新春の集い
- 2.7 ●えきほく美店街実行委員会
- 2.9 ●自民党富山市連帯任務務会・支部長幹事長会議●信友会総会
- 経営者との懇談会（コーセル）
- 2.10 ●女性の会役員会
- 2.13 ●中川原町内懇談会●杉本正議員活動30周年を祝う会
- 2.14 ●自民党政調会●自民党水産議員連盟懇談会
- 2.15 ●富山ライオンズクラブ例会
- 2.16 ●富山市政懇談会
- 2.17 ●山室中部自治振興会役員会
- 2.18 ●自民党政調会●蘭秀同窓会（山室小学校）役員会
- 2.19 ●富山県農工工業（協）定例総会
- 2.20 ●自民党山室支部定例総会●山室地区長勢甚速・野上浩太郎新春の集い
- 2.21 ●自民党政調会●自民党正副部会長会議
- 2.22 ●常西用水土地改良区役員会●高志学園後援会新年会
- 2.23 ●後援会執行部会
- 2.24 ●経営企画常任委員会視察
- 2.25 ●政策討論委員会検討小委員会●商工労働常任委員会
- 県政報告会（友の会）●MOA議員連盟懇談会
- 2.26 ●富山市日中友好協会総会
- 2.27 ●力足健蔵・五本幸正・村家博事務所開き●MOA普及会総会
- 2.28 ●2月定例議会本会議（提案理由）●自民党議員総会
- 3.1 ●議案説明会●富山ライオンズクラブ例会●山室中部校下町内会長会議
- 3.3 ●本会議（代表質問）
- 3.4 ●蘭秀同窓会入会式●県庁OB会富山地区総会●忠政会総会
- 3.6 ●自衛隊激励式典
- 3.7 ●本会議（一般質問）
- 3.9 ●本会議（一般質問、中川忠昭質問）
- 3.11 ●新総会●本会議（一般質問）●議会運営委員会●常陸川沿岸用水土地改良区連合常務総会
- 3.12 ●自民党富山市連帯任務務会●富山市ゲートボール協会決算理事会
- 山室中部体育協会決算総会●後援会代表者会議
- 3.13 ●笹木重一・原田住平広事務所開き●北陸新幹線小西高築橋工工事安全祈願祭
- 中川ただあき後援会家族ふれあいボーリング大会
- 3.14 ●予算特別委員会●観光議員連盟総会ら勉強会
- 3.15 ●山室中学校卒業式●常西用水土地改良区総代会●富山ライオンズクラブ例会
- 3.16 ●予算特別委員会
- 3.18 ●予算特別委員会●ネパール・ムスタン地域開発協力協会富山県支部総会
- 3.21 ●砂子坂和夫事務所開き●友井賢太郎コンサート
- 3.22 ●本会議（総括質問）●自民党議員総会
- 3.23 ●商工労働常任委員会●議会運営委員会
- 3.24 ●朝助強会●自民党議員総会●本会議（採決）
- 3.25 ●西町・総曲輪地区第一種市街地再開発事業竣工式典●松川遊覧船船式
- 3.26 ●不二米町長寿会総会
- 3.27 ●丸山治久事務所開き●各町内総会
- 3.28 ●主要地方道と山立公園園線と竣工式（富立大橋）
- 3.29 ●三寿会役員会
- 4.2 ●第五回若手有志の会主催異業種交流会
- 4.3 ●全日本不動産協会富山県本部40周年記念式典・祝賀会
- 4.4 ●自民党富山市連合会支部市長選協賛●富山市ゲートボール協会総会
- 県政報告会（立正佼成会）
- 4.5 ●富山ライオンズクラブ、ライオンズ花見例会
- 4.6 ●山室中部小学校入学式●山室中部福寿会総会
- 4.7 ●山室中学校入学式
- 4.8 ●北日本政経懇話会●平成17年度山室中部体育協会予算総会
- 4.9 ●片山学園中学校開校式・入学式・パーティ
- 4.11 ●平成17年度富山県庁OB会総会
- 4.14 ●平成17年度富山地区春季実践倫理講演会
- 4.15 ●富山県議会議員親善ゴルフ大会
- 4.16 ●第23回富山市高齢者ゲートボール選手権大会●山室小学校教職員歓迎会
- 4.17～25 ●富山市長・市議会議員選挙
- 4.18 ●日本スポーツマスターズ2005富山実行委員会第二回総会
- 4.21 ●富山県測量設計業協会総会



中川ただあきさんと「しゃべらんまいけ」（中川原地区の女性のみなさんと）



中川ただあき後援会総会



忠政会での不二越視察



MOA自然農法見学

中川ただあき県政通信[水(ウォーター)]

- 4.22 ●正副委員長会議●自民党文教公安部会
- 4.25 ●富山護国神社春季例大祭
- 4.26 ●山室高砂会連合会総会
- 4.27 ●常西土地改良区役員会●地すべり対策技術協会富山県支部平成17年度通常総会
- 富山土地改良区発行祝賀会
- 4.28 ●教育警務常任委員会●富山県自家用自動車富山地区第50回評議委員会
- 古沢用水土地改良区用水検分
- 4.29 ●第61回町村住民ゴルフ大会
- 5.7 ●第23回富山地区高齢者ゲートボール選手権大会
- 5.8 ●三枚下（山室・山室中部・太田）ソフトボール大会●第12回富山市男子・女子ゲートボール選手権大会
- 5.9 ●地すべり協会県知事へ要望●富山県日韓親善協会総会
- 5.10 ●富山県自家用自動車協会連合会総会●富山ライオンズ・ライオネス合同例会
- 5.12 ●自民党朝助強会●自民党文教公安部会●自民党議員総会
- 中川ただあきと語る会（中川原の女性のみなさんと）●グリーンキャスター総会
- 5.13 ●水橋家庭業（協）懇談会●富山県モングル友好親善協会総会・バーディ
- 5.14 ●富山高校120周年記念太田ゴルフ大会●富山県インテリア事業協同組合総会・懇親会
- 5.16～17 ●人間ドッグ
- 5.20 ●MOA田植え●富山県橋樑塗装・防食協会H16年度総会
- (社)全日本不動産協会富山県本部40回通常総会
- 5.21 ●山室小学校、山室中部小学校運動会●自由民主党富山県連大会
- ダイチ40周年記念祝賀会●池上工務店創業50周年記念祝賀会
- 中川ただあきと語る会（中川原）
- ダイチ40周年記念ゴルフコンペ
- 5.23 ●三寿会役員会●北日本政経懇話会●富山県鉄構工業（協）27回総会●自民党議員総会
- 5.24 ●新富山市誕生記念式典・祝賀会●富山ライオンズクラブ例会（メンバーズスピーチ）
- 富山県飲食業生活衛生同業組合総会・懇親会●富山県鉄構工業事業組合総会
- H17年度富山県生活衛生同業組合通常総会
- 5.25 ●第6回とやま森の祭典（山田赤目谷）●研友OB会●第27回富山県左官事業協同組合通常総代会
- 5.26 ●正副委員長会議●森市長親睦会
- 5.27 ●もなみ保育園竣工式●第33回やすらぎの会総会
- 5.28 ●町内対抗ビーチボール大会●山室中部防犯組合総会●中川ただあき後援会総会
- 5.29 ●政務調査会・組織委員会・広域市町村会議●政調六部会懇談会
- 5.31 ●自民党富山県広域市町村（富山ブロック）政務調査会・組織委員会合同会議
- 6.1 ●愛知万博（富山県の日）視察
- 6.2～3 ●中川原物故者追悼法要●高友会総会
- 6.4 ●三世代ランドゴルフ大会●自民党富山市太田支部総会
- 6.5 ●友井昌美55周年記念デイナーショー
- 6.6～7 ●奈良県、三重県
- 6.8 ●教育警務常任委員会
- 6.9 ●建設交通部と県東部地域産業活性化議員協議会の合同開催
- 6.10 ●教育警務常任委員会陳情（警察庁・文部科学省）
- 6.12 ●幸友会（五本幸正市議会議員）ゴルフコンペ
- 6.13 ●自民党朝助強会●6月定例議会本会議（提案理由説明）
- 6.15 ●本会議（代表質問）
- 6.17 ●本会議（一般質問）中川忠昭質問
- 6.18 ●宮本光明（県議会議員）親睦ゴルフコンペ
- 6.19 ●北日本政経懇話会懇親ゴルフ大会
- 6.20 ●忠政会の忠孝会開催（橋不二越視察）
- 6.21 ●本会議（一般質問）●富山ライオンズクラブ例会
- 6.22 ●富山県建設専門工事業団体協議会と県との懇談会●常西用水土地改良区役員会
- 6.23 ●予算特別委員会●自民党組織委員会
- 6.24 ●教育警務常任委員会●新潟大学農学部同窓会総会
- 6.25 ●横田安弘氏富山県議会議長就任祝賀会
- 6.26 ●中川原町内ゴルフ大会
- 6.27 ●本会議（採決）●自民党議員総会●自民党活性化ワーキングチーム発足
- 6.28～30 ●自民党文教公安部会視察（岡山県、広島県）
- 6.30 ●常西用水土地改良区委員会
- 7.1 ●故日川敏之さんを偲ぶ会●不二米町（忠米会）県政報告会
- 7.2 ●第52回自民党富山市連及び第10回富山県第一選挙区支部定期総会
- 7.3 ●自然農法実施者宅訪問会●2005年度少子育奉法富山大会
- 7.4 ●平成17年度白岩川水系改修期成同盟会総会
- 富山駅周辺連続立体交差事業促進期成同盟会総会
- 平成18年度富山市の重点事業に係る説明会
- 7.5 ●第5回同志グリーン会（県庁OB会）ゴルフコンペ
- 7.6 ●平成17年度富山港外港建設促進期成同盟会定期総会
- 平成17年度富山港振興協議会定期総会●秋浦橋新設促進期成同盟会
- 7.8 ●女性と語る会（山室荒屋南台）●野上浩太郎参議院議員「浩友会」総会
- 県政報告（山室町内会役員会）
- 7.9 ●西番神社奉納相撲大会●女性と語る会（山室荒屋南台・松ヶ丘、東流杉）
- 7.12 ●常陸川沿岸地区国営総合農地防災事業推進協議会総会●常西用水土地改良区役員会
- 7.13 ●常西用水土地改良区臨時総代会
- 7.14 ●自民党文教公安部会●女性と語る会（公文文、天正寺）
- 7.15 ●女性と語る会（山室荒屋新町）
- 7.16 ●女性と語る会（高屋敷2区）●中川勇氏副議長就任祝賀会
- 7.17 ●竹田テリ子氏黄綬褒章受賞祝賀会●宮路川岸川
- 7.18 ●夏野元志後援会ゴルフ大会●瑞泉の里まつり
- 7.19 ●女性と語る会（中川原台）
- 7.20 ●女性と語る会（町村）
- 7.21 ●女性と語る会（古寺、流杉、町村）
- 7.22 ●第5回建設専門工事業団体協議会定時総会
- 7.23 ●中川ただあきと語る夕涼み会

ごあいさつ

一年中で最も暑い時季を迎えておりますが、皆様にはご健勝で過ごしのことと存じます。5月の「中川ただあき後援会総会」には多数の皆様にご出席いただき、盛大に開催できましたことを厚く御礼申し上げます。

中川忠昭議員も2期7年目を迎え、新しい富山市の発足とともに、より広い視野に立って積極的に県政に取り組んでいます。また、今年度は教育警務常任委員長に就任。21世紀を担う子どもたちの教育や、県民の命と暮らしを守る安心安全な地域づくりの推進など、委員長としての手腕が期待されています。後援会といたしましても、さらに組織の拡充を図りながら、中川議員とともに県政向上に努めたいと思います。皆様には、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

中川ただあき後援会会長 堀田 敏夫

いっしょに創ろう、心豊かな社会



中川ただあき
シンボルマーク主旨
熱い思いで、心豊かな
地域づくり、県づくりに
全エネルギーを傾注する
私自身の姿を、中川の
頭文字「N」をモチー
フに表現。手足を大きく
ひろげ、元気に活動する
姿と重ね合せました。

中川ただあきの主な役職

- 教育警務常任委員会委員長
- 地方分権・行財政改革特別委員会委員
- 自由民主党文教公安部会部員
- 常西用水土地改良区理事長代理
- 都市・農山漁村地域交流活性化推進議員連盟事務局長

中川ただあき 後援会事務所

〒939-8015 富山市中川原368
TEL.076-425-1924／495-8739
FAX.076-425-1971

<http://www.tadaaki.jp/>

あなたのご意見やアドバイスをお待ちしております。

★Eメールアドレス★

nakagawa@tadaaki.jp



この冊子は地球環境にやさしい
水無印刷で作成しました。